

令和3年度薬物乱用防止講座

4月27日（火）6校時のLHRの時間に、1年生対象の「薬物乱用防止講座」が行われました。講座は「三者連携プログラム（DARP）」（岩手県教育委員会作成）の形式で進められ、薬物乱用が及ぼす心身への害や社会的影響を学ぶ他、薬物を勧められた時の対処方法について考える機会となりました。



薬物は自分には関係ないと思っていませんか？今日は一緒に薬物乱用を防止するために一緒に学んでいきましょう。
あっ、誰かやってきましたね。

もうすぐ大会で、練習がきつくて疲れがたまっていますよ。



疲れが取れるいい物があるけど、やってみないか。「スピード」っていう薬だよ。すごー効くんだけ。



学校薬剤師 神田勇人先生

「スピード」と呼ばれているのは、覚せい剤のことですよ。薬物乱用とは、①法律で使用が禁じられている薬物を使うこと ②医薬品を治療以外の目的で使うこと で、例えば1回だけ使っても「乱用」になります。薬物がもたらす快楽を求め、「一回だけ」を続けていくうちにやめられなくなり（依存）、徐々に量を増やさないと満足しなくなってしまう（耐性）。

私もやせたいと思っているだよ。彼も太っている女は嫌いだって言っているし…。



いいのがあるのよ。今はやっているやせ薬だよ。食欲がなくなって食べなくても平気になるのよ。これでスリムなボディになれるよ。

それは本当にやせ薬ですか？言葉巧みに隠語を使って密売が行われています。最近はインターネットを利用した密売が多くなり、未成年の大麻事犯検挙人数は年々増加傾向です。大麻は他の薬物より安価で手に入れやすく、危険性が低く認識されがちですが、大麻も他の薬物同様、身体的・精神的・社会的に大きな影響を及ぼします。未成年でも刑事責任能力があるとされ逮捕されます。成長も夢も自由も奪われてしまいます。



花巻警察署 菅 洋生 氏



私たちはもし薬物を誘われた場合、NOとはっきり断る勇気が必要です。最初から危ない人と分かっているなら、近づかないよう避けることが一番です。逃げられず声をかけられたら、聞こえないふりをして素早く立ち去ることもひとつです。でも、もし、親しい人から予想外に誘われたらどうすべきでしょうか。

これ、「アイス」だけやってみないか。嫌なことがあったんだろ？スッキリしたいんだろ？



保健委員 小野 千駆 さん

やっぱりいらない！覚せい剤をやったって何も解決しない。そんなものに頼らないよ。俺、帰るよ。

俺はやらないよ。覚せい剤をやったって何にもならないよ。おまえもやめろよ。もっと自分を大切にしろよ。

【受講した1年生も自分なりの断り方を考えました】

「大丈夫、もう最高の気分だから」

「そのたった1回だけで人生が狂うのは嫌だよ。あなたも早いうちにやめた方がいいよ。」

「興味ないし、部活とか勉強がんばりたいから捕まるのはごめんだもん。」

「私そういうの嫌だからやりたくない。今日は帰るね。」

「ごめん、お腹痛くなったからトイレ行ってくる。」

「何かあったなら相談のりましょうか？」



友だちといえども、薬物をやっていることが疑われるような時には極めて危険なので、自分たちだけで悩まず、家族や専門家、先生方や近くの交番にいる警察の人など、信頼できる大人に相談してください。

「白い粒の恐怖」
(体験者の手紙の朗読)



放送部員 小館 なごみ さん



出演者の皆さん、どうもありがとうございました。



【受講後の感想】

- ・ 学校薬剤師の方や警察の先生、薬物乱用をした女性の手紙などいろいろあり、たった1時間でしたが充実した内容で薬物に関することについてたくさん学びました。
- ・ 知人や友人に勧められたら一回くらい使ってしまう気持ちは少し分かる。でも、一度でも使えば抜け出すことは難しいので、心苦しくても自分の気持ちをハッキリと伝えるのが非常に重要なことだと思う。
- ・ 改めて薬物の危険性を感じることができてよかった。高校生になって行動範囲が広がり、いつでもどこでなにがあるか分からないので、常に気をつけて生活していきたいと思う。